

町の特産品づくりに努める2団体に荣誉!!



上郡だんじ

☆上郡町イタドリ加工研究グループが「ひょうごの農とくらし研究活動コンクール」で「努力賞」を受賞

☆上郡町薬草研究会が「農山漁村いきいきシニア活動表彰」で「奨励賞」を受賞



円心茶

上郡町イタドリ加工研究グループ



町長から賞の伝達を受けるメンバー(中央が藤井さん)



白旗城まつりの会場にて(右から2番目が岡澤さん)

上郡町薬草研究会

11月6日に神戸国際会議場で、兵庫県と県生活研究グループ連絡協議会主催による、「平成15年度ひょうごの農とくらし研究発表大会」が開かれました。この大会中、研究活動コンクールが行われ、「上郡町イタドリ加工研究グループ」が農林水産物加工の部で「兵庫県漁業協同組合連合会代表理事会長賞(努力賞)」を受賞しました。

「上郡町イタドリ加工研究グループ」は、町内に群生するイタドリを材料に漬物を開発。特産品「上郡だんじ」として発表しています。グループ代表の藤井喜美子さん(大枝新)は「受賞に驚いています。これからも、みんなと力を合わせて特産品づくりに頑張ります。」と話されました。

上郡町薬草研究会は、10月15日に東京都で開催された「平成15年度農山漁村いきいきシニア活動表彰式」において、(財)農山漁村女性・生活活動支援協会会長から、農村地域・生活活動部門で「奨励賞」を受賞されました。

この表彰は、当団体が、昭和63年の発足から行っている薬草の研究、特産品「円心茶」の開発、普及などの活動が生涯現役を目指す高齢者の活力を高め、地域の活性化に貢献していると認められたものです。この受賞に際し、代表の岡澤邦雄さん(岩木)は「特産品づくりの難しさを実感しています。この受賞を励みに、今後も町の特産品づくりに少しでも力になればと頑張っています。」と話されました。

白旗城まつり(11月23日)会場

NEW 新特産品の試食・販売!!



役場産業振興課を事務局とする「上郡町名物検討委員会」が、新特産品として、地元のお米を素材に、柿や、きな粉など4種類の味で作り上げたアイスクリーム「ライスアイス」と、番茶の風味を生かした生地であんこを包んだ「番茶まんじゅう」を開発。去る11月23日、白旗城まつりの会場で、試食と販売を行い好評を得ていました。

『体験農園(貸し農園)に関するアンケート調査』の結果をお知らせします。

町がふるさと振興の一環として計画している体験農園(貸し農園)に対する皆さまのニーズや関心を把握するために、9月に実施したアンケートの集計結果をご報告いたします。

＜回収結果＞
回収率.....21%
※5,827世帯を対象とし、1,206世帯より回収

＜アンケート集計結果＞
☆「利用したい」と答えた世帯.....41世帯
☆少し興味がある世帯.....37世帯
※町内で合計78世帯が体験農園を何らかの形で取り組みたいと回答されています。

＜今後の活用計画＞
この結果は、年末の農会長会や、年明けの地区別農会長会でご報告を行ない、隣接農会農家と協議しながら実施等について検討していく予定です。また、利用したいとご回答いただきました方々には、今後関係農会等と調整が取れ次第、ご連絡いたします。この度のアンケートにご協力いただきましてありがとうございました。

産業振興課 農林振興係 ☎52-1116



ピュアランドの料理長が屋外で調理方法を説明

11月16日(日)、「上郡森林体験の森」(山野里)で約

30名の参加者を集め、「しいたけ・ひらたけ調理教室」が行われました。この行事は、今年6月末に、町内の森のインストラクターと県森林林業課の指導により、参加者を募集して行われた「しいたけ・ひらたけ栽培教室」で植えられたものが収穫の時期を迎え行われたもので、森林ボランティア団体などが企画し、実施しました。

収穫したひらたけは、ピュアランドの料理長が豚汁の具として調理し、また、しいたけは参加者がめいめいにホイル焼きにして、飯ごうで炊いたご飯と一緒に味わいました。



しょうゆやバターで味つけ

自然の中で収穫し、味わう秋の風味

森林体験の森で、しいたけ・ひらたけ調理教室を開催



ちょっと緊張、でも楽しいな

11月15日(土)、鞍居公民館の和室では「ふれあいフェスティバル」の一環として、鞍居幼稚園児18名と高齢者、茶道クラブによるお茶会が、杉本千里さんの指導で行われていました。園児たちは客席の家族を前に、照れながらお茶をたて、丁寧なもてなしをしていました。



指導者の瀬崎勝二さん

播磨科学公園都市にある世界最大の大型放射光施設

へえ〜。スプリング8ってすごいんだ!

町内の2小学校で「産業協力授業」を実施



熱心に授業をうける鞍居小6年生

・スプリング8を活用して、子どもたちの科学に対する興味を深めようと、鞍居、高田の両小学校で、産業界と教育現場が連携した取り組み、「産業協力授業」が行われました。10月中旬から約1カ月の間で、各小学校で5回づつ行われた授業では、スプリング8を管理運営する高輝度科学センターの施設管理部門長、瀬崎勝二さんが教壇に立たれ、子どもたちと簡単な実験をしたり、ビデオや模型を使って身近な科学や、地球の起源、遺伝子の働きなどについて話

また実際にスプリング8を施設見学し、研究者の方から話を聞く授業もあり、最後の学習発表会の時間には、子どもたちから「スプリング8の説明は難しかった。」「DNAについて教えてもらって、生きていることってすごいと思った。」「将来は科学者になりたい。」「などの意見が出ていました。



「体のしくみ」を学習、発表した高田小4年生